

博物館は誰が作るのか

1. 構想と計画：ことばの意味と使い方

- 1) 構想
- 2) 基本計画（基本設計）
- 3) 実施計画（実施設計）

2. 博物館新設の事例：学芸員採用のタイミング

1) 北海道開拓記念館

年	道庁内	民間協議	資料収集	博物館・展示	学芸員・職員
1962	開道百年記念事業準備委員会設置				
1963	北海道立博物館建設促進期成会結成				
	北海道開拓記念物等調査開始				
	北海道博物館建設促進委員会				
1965	開道百年記念事業協議会（道内各種団体）				
1966	北海道百年記念事業実施方針発表				
	北海道百年記念事業準備室設置	開拓記念館構想協議（準備室）			
	展示計画の研究（北海道大学に委託）				
	開拓記念館資料収集計画作成				
1967	北海道開拓記念館開設協議会設置				
	展示計画の研究報告書				
	構想決定（協議会）				
1967	展示計画の検討（元市立函館博物館館長に依頼）				
1968	資料収集基本方針（3月）				
	「寄贈を原則」と定める、各地に「資料調査協力員」				
	仮収蔵庫使用				
	展示構想試案作成（4月）				
	開道百年記念事業（昭和43）				
1969	基本設計（3月：北海道デザイン研究所）				
	<u>学芸員の増員（4月）</u>				
	常設展示計画案（10月）				
	業務計画案（11月）				
1970	実施設計（3月：北海道デザイン研究所）				
	展示工事発注（9月）				
1971	常設展示完成（3月）				
	開館（4月14日）				

※学芸員の本格的な採用は基本設計終了後、開館の2年前

2) 北海道立北方民族博物館

年	道庁内	網走市・民間	資料収集	博物館・展示	学芸員・職員
1970			北方民族資料館構想（網走市）		
1971			網走市が知事に道立北方民族資料館設置を要望		
1982			博物館設置調査費予算化		
1984				北方民族博物館計画専門委員会開始	
1985				「北方博物館の整備の在り方について」	
1986				「北方民族博物館の設置構想について」	
			北方民族文化シンポジウム開始		
1988				基本計画策定（3月）	
				基本設計（11月）	
1989				実施設計（3月）	
			北方民族館係設置（4月）		<u>学芸員採用</u>
			北欧・北米で資料収集（以降毎年収集）		
				建設着工	
1990				建設竣工（3月）	
			網走市より資料寄贈		
			道立博物館条例制定（3月、5月施行）		
				展示工事着工（5月）	
1991				展示工事竣工（1月）、開館（2月10日）	
			登録博物館認可（3月）		

※学芸員の採用は実施設計終了後、開館の2年前

3) 足寄動物化石博物館

年	町教委	民間団体	資料収集	博物館・展示	学芸員・職員
1976			東柱類第1標本（アショロア）発見		
1980			東柱類第2標本（ベヘモトプス）発見		
1984			化石作業所の開設	アメリカとの資料交換	
1989			「足寄動物化石群研究の記録」発行		
1991					<u>研究員（学芸員）配置</u>
1993				基本構想	
1994				基本設計	
1995				用地取得／実施設計	
			アショロア北大から移管		
1996				着工	
1997			条例策定		
1998				竣工／開館	

※学芸員の採用は基本構想以前、開館の7年前

足寄動物化石博物館については4ページ目「足寄動物化石博物館カルテ」も参照

専門職員の採用時期が建築と展示の内容を決める

3. 建物は誰が作るのか

1) 構想

設置者

専門家

展示会社、広告代理店

2) 計画／設計

構造、設備、展示

3) 設備／施工

建築、電気、空調、給排衛、防災、生物飼育設備、昇降機、展示、外構

のそれぞれ専門会社

4. 展示は誰が作るのか

1) 展示会社 (株) 乃村工藝社、(株) 丹青社、(株) トータルメディア開発研究所、(株) 日展

中央宣伝企画株式会社、(株) 鬼工房、北電総合設計株式会社

Cambridge and Seven Associates, Inc. <http://www.c7a.com/index.asp>

・展示会社の業務分野：専門店、大型商業施設、企業PR施設、販売促進、博覧会・イベント、文化学術施設、公共施設、余暇施設、その他（病院、空港、地下道、本社ビル、ホテル）

・1970年の大阪万博は日本で展示という仕事が認知され、企業が成立する、業界が確立した画期だった。

・万博跡地に開館した国立民族学博物館と初代館長梅棹忠夫は展示の考え方をリードした。

・展示に直接関わる職種は、プランナー（構想・企画）、プロッター（展示室の設計・デザイン）、デザイナー（グラフィック・造作デザイン）、ディレクター（展示工事の進行管理）に分かれる。

・現実には協力会社が実際の工事をする事が多く、現在ではディレクター職がおもな業務になっている。

2) 個別展示物の製作

標本会社 (株) 西尾製作所、(株) 京都科学、(株) 海洋堂、(株) デフ

制作会社（映像） (株) アクロス、北海道映像記録株式会社 <http://www.eizo-kiroku.co.jp/>

個人作家

古生物アート 新村龍也 <http://www.museum.ashoro.hokkaido.jp/html/column/20110111.htm>

透明標本 富田伊織 <http://www.shinsekai-th.com/>

巨大模型の原型 薄井誠 <http://www.asahi.com/mammal/sea/topics/AIC201007220004.html>

ほかにも個人（ライター、イラストレータ、カメラマン、フォトグラファー）に発注している。

5. 展示における学芸員の仕事

構想

資料提供（標本・文章・図）提供

監修

足寄動物化石博物館カルテ

資料・研究	地域アピール	計画	職員・運営
第1標本（アショロア）発見			1975
地域の宝の発掘			1976
	使命 収蔵資料は足寄動物群と呼ばれる化石である。世界的に貴重なデスマスチルスや原始的な鯨類を含み、海生哺乳類の進化研究では第一級の資料とされる。		1977
			1978
			1979
第2標本（ベヘモトプス）発見			1980
鯨類化石発見			1981
			1982
第1・2標本が束柱類と判明	第1回デスマスチルス・シンポ	化石作業所開設	1983
研究者の協力			1984
	地域への普及		1985
	デスマシンポ報告集刊行		1986
アメリカとの資料交換	ロサンゼルス自然史博物館学芸員来町	「ふるさと創生事業」に博物館案	1987
	〃	「ふるさと創生事業」決定	1988
	鯨類化石の名称報告（記載は95年）		1989
	動物化石講演会	基本構想策定	1990
第1標本北大から足寄町へ移管		基本設計	1991
		実施設計	1992
		建築・展示工事着工	1993
		建築工事竣工、設置条例制定	1994
	第2回デスマスチルス・シンポ		1995
レプリカの活用			1996
			1997
			1998
			1999
			2000
最古の鯨のレプリカ交換		アショロア復元完成公開	2001
			2002
最古のアカボウクジラ確認			2003
			2004
流水で座礁したシャチの収集			2005
			2006
			2007
継続的な資料収集			2008
	地域に技術定着		2008
	展示への反映	町内製作シャチ骨格展示	2009
			2010
			現館長採用
			7年
			14年
			足寄動物化石博物館オープン
			現館長退職
			NPOによる意欲的な運営
			NPO法人による運営、学芸員3名体制の実現

キーワード
・全体構想
・展示

化石工場
展示と建築の一体化
1) ジオラマと造作の排除
2) すべてが移動可能な展示台
3) 職員で更新可能なグラフィック

基本構想：足寄動物化石博物館の理念→館長のひとこと
1) 足寄動物化石群を保管・管理すること
→保管・管理だけなら倉庫があればいい
2) 足寄動物化石群を継続的に収集し、研究すること
→収集、研究なら研究所があればいい
3) 足寄動物化石群の標本・研究成果を公開すること
→博物館を作るからには、成果の公開が必要で
4) 足寄動物化石群を町の財産として活用すること
→さらには、化石を町の財産として活用していきたい